

平成29年度 京都市交通局運営方針の総括表

基本方針	平成29年度重点取組				所属等
	重点方針	取組	計画・条例等	実績	
<p>平成29年度は、安全対策やお客様サービスの更なる向上に取り組むほか、市バスの混雑緩和に向けた取組や地下鉄5万人増客を達成したことを踏まえ、新たな増客目標「地下鉄・市バスお客様1日80万人」を掲げ、新たな体制の下で更なる増客に向けて取り組むなど「歩くまち・京都」や「健康長寿のまち・京都」の推進をはじめ、市バス・地下鉄を京都のまちづくりに活用するための取組を推進してまいります。</p>	<p>1 安全運行の確保</p>	<p>①安全意識の向上等 ②安全性の更なる向上に向けた設備投資 ③災害等の緊急時への備え</p> <p>《目標》 ○市バス ・重大事故0件 ・走行距離10万km当たりの有責事故件数について、過去最小値（平成28年度実績値0.266件/10万km）を下回る ○地下鉄 ・有責による運転事故及び輸送障害0件</p>		<p>①安全意識の向上等 <市バス事業> ・安全運転訓練車を新たに導入するとともに、安全運行の確保や快適性の向上につなげる研修を実施した。 ・平成28年度の点呼執行要領の改善と点呼執行状況の監察結果を踏まえ、点呼執行マニュアル・点呼簿様式の改訂、アルコールチェッカー兼IC運転免許証管理システムの導入、業務用携帯電話の配備（私物スマートフォンの持込み禁止）を実施した。</p> <p><地下鉄事業> ・目の不自由なお客様に対し、地下鉄の駅員から案内を希望されるかをお聞きするお声掛けを強化するとともに、視覚障害者の皆さまと共同で、地下鉄を御利用されるお客様に目の不自由な方への積極的なお声掛けをお願いする啓発活動を5回実施した。</p> <p>②安全性の更なる向上に向けた設備投資 <市バス事業> ・発進時の前方確認を補助する車外ミラーの増設や、夜間運行時の視認性を向上させる路肩灯のLED化、巻取りやロックを自動で行える新型の車椅子固定ベルトの導入を行った。 <地下鉄事業> ・2駅3箇所（出入口）に止水板を設置するとともに、扉閉閉時により確実な安全確認を行うため車掌用モニターを2駅に増設したほか、車両扉指詰め警告テープを全車両（烏丸線20編成、東西線17編成）に設置し、扉閉時のお客様の事故防止を図った。</p> <p>③災害等の緊急時への備え ・台風の接近や大雪等の災害が予想される場合に、事前に職員の連絡体制や設備等の確認・点検を行い、状況に応じて必要な措置を講じるなど、お客様の安全と市バス・地下鉄の安全運行の確保に努めたほか、災害やテロ等を想定して、警察や消防、また、他事業者と連携した訓練を実施した。</p> <p><参考> ・市バスについては、重大事故は発生せず、走行距離10万km当たりの有責事故件数についても、過去最小値である平成28年度実績を下回ることができた。（H28 0.266件→H29 0.238件/10万km） ・地下鉄については、当局の責任によって生じる運転事故や輸送障害は発生しなかった。</p>	<p>企画総務部研修所 自動車部各課 高速鉄道部各課</p>
	<p>2 お客様サービス・利便性の向上</p>	<p>①市バスの路線・ダイヤの充実 ②通勤・通学時間帯における地下鉄烏丸線増便 ③ICカードサービスの拡充 ④魅力あるバス待ち環境の創出 ⑤市バス均一運賃区間の拡大 ⑥お客様接遇の更なる向上 ⑦北大路バスターミナルのリニューアル ⑧お客様への案内表示等の充実 ⑨地下鉄駅トイレの美化推進 ⑩地下鉄車両の優先座席エリアのリニューアル ⑪地下鉄烏丸線の新型車両導入に向けた検討</p>	<p>京都市高速鉄道事業経営健全化計画 京都市交通局市バス・地下鉄中期経営方針</p>	<p>①市バスの路線・ダイヤの充実 ・平成29年3月に、「主要系統の運行拡充」「通学系統の運行充実」「早朝や夜間時間帯の運行充実」「便利にご利用いただけるダイヤ編成」「地域主体のMM（モビリティ・マネジメント）と一体となった路線・ダイヤの拡充」等により利便性と快適性の向上を図るダイヤ改正を実施した。</p> <p>②通勤・通学時間帯における地下鉄烏丸線増便に向けた取組 ・平成30年3月に、平成22年3月以来、8年ぶりとなるダイヤの全面改正を実施した。烏丸線では朝夕の通勤通学時間帯の増便を実施し、東西線では京阪京津線のダイヤ改正に合わせ、お客様に乗換え等で御不便をおかけしていた京阪列車の「京都市役所前駅」止まりについて、午前9時台以降に乗り入れる列車を全て「太秦天神川駅」行きに変更した。</p> <p>③ICカードサービスの拡充 ・平成29年4月1日からICOCAカードによるIC定期券を発売するとともに、全国相互利用に対応した全てのICカードにおいて市バス・地下鉄・京都バスを乗り継いだ場合に、2乗車目の運賃を割り引く「乗継割引」を開始した。 ・平成30年3月17日から地下鉄とJR西日本、地下鉄と阪急とのIC連絡定期券の発売を開始した。</p> <p>④魅力あるバス待ち環境の創出 ・バス停上屋の整備 市内周辺地域等におけるバス停上屋の整備については、歩道整備工事の進捗により23箇所（新設18箇所、更新5箇所）にとどまった。 老朽化の進んだテント式上屋のリニューアルを20箇所で行った。 ・ソーラー式バス停照明の設置 電源の確保が困難なバス停における夜間の視認性及び安全性の向上のため、ソーラー式バス停照明を151箇所を設置した。 ・地域、事業者の協力による新たなバス待ち空間「バスの駅」の設置 地域、民間の皆様の御協力によりバス停に近接する土地等を無償で提供していただくバス待ちスペース「バスの駅」を11箇所を設置した。 ・インターネットを活用したバス接近表示器 新たに条件の整った箇所や「バスの駅」など15箇所を設置した。 ・ベンチの整備 地域や民間事業者の御協力のもと、43箇所のバス停に整備した。 ・「京（みやこ）の駅ミスト」・「京（みやこ）のまちなかミスト」の実施 上下水道局との共同事業として、京都駅前バスのりば及び四条通バス停（四条高倉・四条河原町）で水道水を利用したドライ型ミスト装置を稼働した。</p> <p>⑤市バス均一運賃区間の拡大 ・市バス均一運賃区間については、並走する民間バス会社との協議を進めたものの、均一運賃区間をさらに拡大させるには至らなかった。</p> <p>⑥お客様接遇の更なる向上 ・京都駅や主要観光地最寄り停留所、語学に堪能なスタッフがきめ細やかな交通・観光案内を行う京都市バス「おもてなしコンシェルジュ」について、平成29年度は活動日数を倍増するとともにキャリアバックをお持ちのお客様への手荷物配送サービスの案内や、地下鉄などの鉄道を組み合わせたルート案内など、市バスの混雑対策にも重点的に取り組んだ。 ・職員を対象とした全国お客様サービス実践モニター制度を実施したほか、外国人のお客様対応のための英会話講座などの自主研修を実施した。</p> <p>⑦北大路バスターミナルのリニューアル ・のりばのオートドア位置を中扉車に合わせる改修、案内表示の4箇国語化、照明設備のLED化を実施した。</p> <p>⑧お客様への案内表示等の充実 <市バス事業> ・車内案内モニターについて、混雑時に車内後方のお客様も次停留所等の情報を確認しやすいよう、車内中央部に増設した。 また、これまでの2箇国語表示から4箇国語表示へ変更するとともに、鉄道との乗換停留所を示すピクトグラムやマナー啓発画面を追加するなど案内表示の充実を図った。 <地下鉄事業> ・無人改札口へIC対応型多機能インターホン（今出川・烏丸御池駅）を設置した。 ・駅構内の案内サインについて、色遣いや表記方法を統一的なものにするなどお客様にわかりやすい表示への変更について烏丸線3駅、東西線10駅において実施した。（全駅で更新完了） ・車両の案内表示について、駅名の4箇国語表示などより見やすく、より充実した御案内ができる案内表示器の更新について烏丸線5編成、東西線4編成で実施した。 ・目の不自由なお客様をホーム階の階段及びエレベーターから交通局車両（6両編成）の直近の扉位置まで誘導する既存の点字ブロックに加え、新たに、京阪車両（4両編成）の直近の扉位置まで誘導する点字ブロックを追加設置した。</p> <p>⑨地下鉄駅トイレの美化推進 ・五条駅のトイレについてリニューアルを行い供用を開始するとともに、鞍馬口駅、竹田駅のトイレの実施設計を完了した。 ・駅トイレの美化推進に向けて、全駅で床面コーティング等を実施した。</p> <p>⑩地下鉄車両の優先座席エリアのリニューアル ・優先座席前の床面に表示シートを設置するなど優先座席を必要とされるお客様がこれまで以上に御利用いただきやすくなるよう烏丸線全20編成、東西線全17編成でリニューアルを完了した。</p> <p>⑪地下鉄烏丸線の新型車両導入に向けた検討 ・地下鉄烏丸線の新型車両導入に向けて、御利用される方などの幅広い意見をデザインに取り入れるため「地下鉄烏丸線車両の新造にかかるデザイン懇談会」を開催した。</p>	<p>営業推進室 自動車部各課 高速鉄道部各課</p>

基本方針	平成29年度重点取組				実績	所属等
	重点方針	取組	計画・条例等			
<p>平成29年度は、安全対策やお客サービスの変る向上に取り組むほか、市バスの混雑緩和に向けた取組や地下鉄5万人増客を達成したことを踏まえ、新たな増客目標「地下鉄・市バスお客様1日80万人」を掲げ、新たな体制の下で更なる増客に向けて取り組むなど「歩くまち・京都」や「健康長寿のまち・京都」の推進をはじめ、市バス・地下鉄を京都のまちづくりに活用するための取組を推進してまいります。</p>	3 市バスの混雑緩和	<p>①輸送力の増強（増車）による主要系統の運行拡充</p> <p>②乗車定員の多い「ラッシュ型車両」の導入</p> <p>③バス停のモニター用カメラを活用した機動的な臨時バスの運行</p> <p>④京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”による御案内の充実</p> <p>⑤新たな乗降方式（前乗り後降り）の検討</p>		<p>①輸送力の増強（増車）による主要系統の運行拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年3月の新ダイヤにおいて、バス車両を増車し、増便を実施した。 <p>②乗車定員の多い「ラッシュ型車両」の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての新造車両について、車両後部の通路幅を広く確保した乗車定員の多い「ラッシュ型車両」を導入した。 <p>③バス停のモニター用カメラを活用した機動的な臨時バスの運行</p> <ul style="list-style-type: none"> 主要停留所のモニター用カメラで撮影したお客様の御利用状況を、本局や営業所がリアルタイムで確認できる「バス停留所状況確認システム」を活用し、東山方面や金閣寺方面から京都駅へ向かうバスの増便など、混雑状況に応じた臨時バスの運行を積極的に行った。 <p>④京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”による御案内の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都駅や主要観光地最寄り停留所で、語学に堪能なスタッフがきめ細やかな交通・観光案内を行う京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”について、平成29年度は活動日数を倍増したほか、地下鉄をはじめとする鉄道を組み合わせたルート案内や、キャリアバックをお持ちのお客様に手ぶら観光カウンターへの御案内を行った。 <p>⑤新たな乗降方式（前乗り後降り）の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 車内前方、後方の双方から降車の動線が確保でき、車内の混雑緩和が期待される「前乗り後降り」方式の導入に向け、外部有識者等で構成する「市バスの乗車環境を考える懇話会」を設置し、懇話会からの御意見も踏まえ、洛バス100号系統において実証実験を実施した。その結果、停留所におけるバス停車時間の短縮効果やお客様の車内のスムーズな移動に効果が認められ、また、お客様アンケートにおいても好意的な評価をいただいた。これらを踏まえて、平成30年度中に、「前乗り後降り」方式を洛バス100号系統に本格的に導入する方針を決定した。 	自動車部運輸課 技術課	
	4 「市バス・京都バス一日乗車券カード」の価格適正化等	<p>①「市バス・京都バス一日乗車券カード」の価格適正化</p> <p>②「京都観光一日（二日）乗車券」の値下げ</p> <p>③「トラフィカ京カード」による乗継割引サービスの拡充</p>		<p>①「市バス・京都バス一日乗車券カード」の価格適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成12年度に700円から500円に大幅に値下げして以降、価格を据え置いていた「市バス・京都バス一日乗車券カード」について、有識者等で構成する「市バスの乗車環境を考える懇話会」から御意見を伺いながら、平成29年2月市会での付帯決議も踏まえ、市民の皆様への丁寧な説明に努めつつ、価格を500円から600円に改定した。また、乗車券の名称をより分かりやすいものとなるよう、「バス一日券」に変更した。 <p>②「京都観光一日（二日）乗車券」の値下げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内を市バス・地下鉄を組み合わせて上手に御利用いただき、より快適に移動していただけるよう、京都観光一日乗車券を1,200円から900円に、京都観光二日乗車券を2,000円から1,700円に値下げするとともに、乗車券の名称をより分かりやすいものとなるよう、「地下鉄・バス一日券」、「地下鉄・バス二日券」に変更した。また、新たに山科・醍醐エリアを運行する京阪バスでの利用も可能とし、利便性を向上させた。 <p>③「トラフィカ京カード」による乗継割引サービスの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の皆様が地下鉄と市バスの乗継利便性の一層の向上を図るため、主に市民の皆様が利用されるトラフィカ京カードの乗継割引額を平成30年度中に拡充することを決定した。 	営業推進室	
	5 更なる増収・増客策の推進	<p>①地下鉄・市バスの新たな増客策の展開</p> <p>②駅ナカビジネスの積極的展開</p> <p>③キャラクターを活用したPR展開</p>	<p>京都市高連鉄道事業 経営健全化計画</p> <p>京都市交通局 市バス・地下鉄 中期経営方針</p>	<p>①地下鉄・市バスの新たな増客策の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな増客目標「地下鉄・市バスお客様1日80万人」の達成に向け、民間団体にも参画いただく組織「チーム『電車・バスに乗るっ』」を平成29年7月に設立し、JR西日本と連携した電車とバスを組み合わせた観光ルートのPR活動等の民間と行政の共汗（協働）によりひとと公共交通優先のまちづくりに寄与する活動を展開した。 副市長をトップとする全庁組織「京都市地下鉄・市バスお客様1日80万人推進本部」のもと、全庁一丸となって積極的かつ着実に取組を推進していった。 「地下鉄・市バスお客様1日80万人アクションプログラム」を策定し、当該プログラムに基づき、増客に向けた取組を推進した。 地下鉄東西線開業20周年を記念し、東西線沿線の区役所に加え、駅周辺地域、地下鉄沿線の施設や大学、団体等との協働で、地下鉄の増客や沿線地域の活性化に繋がる催しを開催した。 「きょうと☆いのちがやく博物館」包括交流連携協定を締結している、京都市動物園・京都府立植物園・京都水族館・京都市青少年科学センターの4施設と連携し、地下鉄を使って 各施設へのおでかけを楽しんでいただくスタンプラリーを実施した。 さらに、協定の2周年を記念して、4施設の魅力を発信するPRイベントを地下鉄京都駅コトチカ広場にて実施した。 愛される市バス・地下鉄を目指し、将来にわたりお客様となっていた小学生のお子様とその保護者の方を対象に、竹田車両基地において施設見学会を開催した。 市内の芸術系等の大学や企業と連携し、大学生のアート作品で地下鉄駅構内を演出して地下鉄の活性化を図る「駅ナカアートプロジェクト」を開催した。 また、同プロジェクトの一環として、明治150年を記念して車体に明治時代のファッションや交通をモチーフにしたデザインを施した市バスアート車両を運行した。 <p>②駅ナカビジネスの積極的展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度から設計や出店事業者の公募等の準備を進めてきた「Kotochika北大路」について、平成30年3月に、市バスとの乗継ぎで利用されるお客様が多い北大路駅南改札口付近に新たに2店舗を開業した。 また、更なるコトチカの増収に向けて、地下鉄各駅の現地調査を行い、費用対効果の視点を踏まえつつ、スペースの有無や鉄道施設の一部を商業スペースに転用し有効活用できるかの可否等を確認するとともに、コンビニエンスストアなどの事業者とヒアリングを重ね、店舗展開の可能性について検討した。 <p>③キャラクターを活用したPR展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 地下鉄・市バス応援キャラクターを活用したオリジナルグッズについて、お客様のニーズや収益性を踏まえて製作し、目標を上回る売上げを達成した。 「地下鉄に乗るっ」シリーズのポスターを制作し、公共交通の利用促進や地下鉄の「コトキンライナー」（金曜終電30分延長）のPRを展開した。 沿線施設等の活性化を通じた利用促進を図るため、地下鉄・市バス応援キャラクターを活用した地下鉄沿線施設等との連携企画を実施した。 	営業推進室 自動車部営業課 高連鉄道部営業課	
	6 安定した経営基盤の確立	<p>①<地下鉄事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 更なる増収増客策の推進 安全運行の維持に最大限配慮しつつ更新期間を延長するなど経費削減策を推進 一般会計からの支援確保による収支改善 <p>②<市バス事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 一般会計からの任意補助金に頼らない「自立した経営」を堅持する予算の編成 市バス事業の充実を前提に、黒字の一部を活用した地下鉄事業の経営健全化の財政面からの支援 <p>③<両事業共通></p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな経営ビジョンの策定 コンプライアンスの徹底 		<p>①<地下鉄事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 経営健全化計画に基づき、安全対策やお客サービスの向上に努めつつ、増客の取組や駅ナカビジネスの積極的展開による増収策、コスト削減策等の経営健全化の取組を推進してきたことにより、経営健全化計画より1年前倒しで経営健全化団体から脱却した。 平成29年度決算において、前年度に比べて一日当たりのお客様数は8千人増の38万7千人、運輸収益は4億円の増収となったことなどにより、3年連続となる黒字（2億円）を計上した。 <p>②<市バス事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度決算において、前年度に比べて一日当たりのお客様数は5千人増の36万8千人、運送収益は3億円の増収となったことなどにより、23億円の黒字を確保し、平成26年度以降4年連続で一般会計からの任意補助金の繰入れがゼロとなる「自立した経営」を堅持した。 市バス事業の黒字の一部を活用し、地下鉄事業の経営健全化を財政面から支援する出資について、平成29年度予算に引き続き、平成30年度予算においても計上（13億43百万円）したほか、今後の車両や設備の更新に備えるため建設改良積立金に積み立て（12億1千万円）、これまでの出資に対する一般会計への配当（1億34百万円）を平成30年度予算に計上した。 <p>③<両事業共通></p> <ul style="list-style-type: none"> 将来にわたり市バス・地下鉄事業を安定的に運営していくことができるよう、今後10年間を期間とする新たな「経営ビジョン」の平成30年度中の策定に向け、観光や文化、まちづくり等の有識者や利用者の方々で構成する「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン検討委員会」を設置し、両事業の経営の方向性等について幅広く御意見をいただいた。 平成28年度に不祥事が発生したことを踏まえ、平成29年度においては、幹部職員による職場巡視や全職員を対象とした所属研修等において公務員倫理及び法令遵守について改めて周知徹底を行い、コンプライアンスの徹底に取り組んだ。しかし、平成29年10月に市バス車内で転倒されたお客様に対して運転士が不適切な対応を行った事案が発生したことを受け、多くの職員が公務員倫理及び法令遵守を徹底する中、いまだ一部の職員においては意識改革が不十分であると判断し、幹部職員による職場巡視の実施や、全職員を対象とした所属研修等においてコンプライアンスの徹底を求めることはもとより、新たに特別監察を実施するなど、年度途中から服務監察の取組を強化し、強い危機感、緊張感を持って服務規律を遵守し、お客様から信頼していただける安全な市バス・地下鉄を目指し、職員の意識改革に向け取り組んだ。 	企画総務部総務課 職員課 財務課	